

第一生命経済研レポートテーマ（2006年10～11月）

<p>2006年10月号 (通巻115号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・内外景気 ・金融マーケット ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・内部統制をどう捉えるか ・シリーズ ・中小企業アイ ・セクター分析 ・よくわかる経済指標 ・マクロ経済空模様 	<p>「過剰流動性を嫌わないで…」～あらためてマネーを考える～ 日本経済～インフレ目標政策とは何か？～ 海外経済～金利低下に支えられる米国住宅市場～ 経済フローチャート～日本経済の現状と6ヶ月見通し～ 早くも資金流入が見られる商品市場 円債利回り・ドル/円レートの6ヶ月見通し 2006・2007年度 日米経済見通し 民間調査機関の経済見通し（2006年8月） ～減速？踊り場？見方分かれる景気の行方～ 「わかる化」の基礎を築くCSA（統制自己評価） ～内部統制をどう捉えるか⑥～ 株価形成とバブル ④ 中小企業にできること・人材編 ② 産業別利益動向 GDPデフレーター</p>
<p>2006年11月号 (通巻116号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・内外景気 ・金融マーケット ・経済トレンド ・内部統制をどう捉えるか ・シリーズ ・中小企業アイ ・セクター分析 ・よくわかる経済指標 ・マクロ経済空模様 	<p>英国の自由主義と賢女の群像 日本経済～いざなぎ景気を超えて～ 海外経済～長期金利の低下が続けば利上げ再開も～ 経済フローチャート～日本経済の現状と6ヶ月見通し～ 焦点は米クリスマス商戦に 円債利回り・ドル/円レートの6ヶ月見通し 日本経済の10年予測～デフレ克服後の日本経済～ 知りたいことを決めれば内部統制評価は五合目 ～内部統制をどう捉えるか⑦～ 英米型資本主義の興隆とその将来① 中小企業にできること・戦略編 ① 産業別利益動向 鉱工業指数</p>

編集後記

最近家電量販店にも酒類売場がある。先日会社帰りに近くの大型店で1590円のワインをレジに持参すると、店内通算百枚目ごとのレシートに該当し、代金を無料にしてくれた。ラッキーと思ったのと同時に、パソコンかせて1万円くらいのワインを買うのだった、とケチなことを考えた。店員によると法令で購入額のうち10万円が上限とのこと。

量販店に並ぶ薄型テレビなど先端の家電製品が年々大幅に値下がりしている。消費者が値引き競争に慣れてしまったことがこんな販促を生んだのかもしれない。数量が売れてもなかなか売上金額が伸びない世の中だ。

景気の強弱を語る場合には物価変動を含まない「実質」成長率で語られることが多い。デフレ脱却の段階になっても景気回復の実感がないと言われる理由のひとつがここにあるかもしれない。たとえば1965年から70年まで続いた「いざなぎ景気」の期間中に実質GDPは1.7倍弱、名目GDPは2.2倍を超えて拡大した。それぞれ年率に直して11.5%、18.4%の成長を記録した。期間こそこれに並んだ今次の景気回復だが、実質年率2.4%、名目1.0%成長のスローペースである。長いデフレから病み上がりの状態で、成長率の大小は高度成長期と比べるべくもないが、年に1%の成長では回復が実感しにくい。中央銀行、財政当局など立場によって物価上昇についての見解は微妙に異なる。ほんの少し前には「良いデフレ」と言われたことすらあったが、物価が上がらないので生活が楽だという話は聞かない。むしろ名目賃金で生活する消費者の気分からしても景気実感は物価の自然な浮揚と切り離せないのではないかと。(H. U)